

令和元年度第2回広島市スポーツ推進審議会 会議録

I 開催日時

令和元年11月15日（金） 14時30分～16時

II 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

III 出席者

1 委員 20名中15名出席

上野委員、香川委員、河邊委員、木原委員、木村委員、倉石委員、下岡委員、
杉野委員、田川委員、中西委員、鍋島委員、西野委員、東川委員、麓委員、渡部委員
（欠席：大前委員、菊田委員、武田委員、玉田委員、土田委員）

2 オブザーバー 3名中2名出席

木下オブザーバー、野依オブザーバー
（欠席：上田オブザーバー）

3 事務局（市）

市民局長、文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、健康福祉局障害福祉課長、健康福祉局健康推進課長補佐

IV 公開・非公開の別

公開

V 傍聴者

0人

VI 会議内容

1 開会

2 議事

- (1) 今後の本市スポーツ施策の取組方法について
- (2) スポーツに関する市民意識調査の実施について
- (3) 数値目標等の策定スケジュール

3 閉会

VII 会議資料

- ・ 令和元年度第2回広島市スポーツ推進審議会次第
- ・ 広島市スポーツ推進審議会委員等名簿
- ・ 令和元年度第2回広島市スポーツ推進審議会配席図
- ・ 議事関係資料

議事資料1：今後の本市スポーツ施策の取組方法について（P1～P2）

議事資料２：スポーツに関する市民意識調査の実施について（P3～P10）

議事資料３：数値目標等の策定スケジュール（P11）

参考資料１：平成２１年度に実施したスポーツに関する市民意識調査（２０歳以上）

参考資料２：広島市スポーツ振興計画（平成２８年３月改定）

Ⅷ 主な発言要旨

１ 議事１及び議事２について

○ 東川会長

来年度で一つの括りになるわけだが、その後の進め方について事務局から説明いただいた。具体的な施策を検討していく上で、市民の意識調査等を通して、市民の実態に即した具体的な施策を考えていきたいとの説明であった。そのための市民意識調査の実施方法あるいは実施内容であると思う。議題の１と２に関わる場所であるが、何か気づきの点あるいは質問等があったらお願いしたい。意識調査の内容についてすぐに御意見いただくことは難しいと思うが、基本的な進め方について、御意見があればお願いしたい。

○ 鍋島委員

今後の取り組みということで、事務局から提案をいただいた。前回のスポーツ振興計画に基づいて、できるだけ数値化しようということで、スポーツ実施率について、７０％を目標で掲げているが、最終的には６７％ぐらいになったのか。

○ スポーツ振興課長

２ページに、現行のスポーツ振興計画の数値目標と、参考までに平成３０年度の実績を記載しているところである。

○ 鍋島委員

前回６４％ぐらいの数値が出ていたが、今回６７％の結果が出ている。本当に市民が積極的にスポーツに取り組んでいこうという雰囲気というか気概が、この１年間のデータを見ても感じ取ることができる。そういう面では非常に良いスポーツ振興計画を立てられたと思う。今後新たな１０年間ということで、基本的な方針の提案があった。ベース的にはそんなに変わるものではないということであるが、そのとおりである。前回もオリンピック・パラリンピックという、大きなエポックがあったので、それを踏襲する形で、今度はレガシーからこれに繋がっていくような形が出来上がっていくのではないかなと思う。１番我々が気になる場所である具体的な施策は来年度論議するとのことであるが、基本的な考え方というのは、良い形の提案かなと思う。あまり細かいことを言い過ぎるかもしれないが、今回、小学校、中学校とか、市民とかというレベルの区分けは非常に分かりやすいが、女性や高齢者、障害者とかの問題について、そういう切り口が余りないので、なかなかこういうものが出来ていかないという市民の思いが、このアンケートを見ただけでは聞き取れないのではないかなという気がする。先ほど言ったように女性や障害者、高齢者が、どう

いう形でスポーツに、言うなれば、そういう機会をどう提供してもらえるのかというようなことが、分かりやすく出ないものかなと思う。さらには障害者について、国際交流事業などを進めると、確かに障害者と健常者が楽しくできるような行事を開催しましょうというのはすごくよく分かるが、やはり今社会全体も、心のバリアフリーというか、共生社会に向けて、スポーツがどういう役割を果たしていくのかという面では項目は変わらなくても、そういう一つの視点の見方というのが必要になってくるのではないかと思う。国際交流事業にしても、やはり多様性を尊重する社会の実現というのが背景にあるものであり、そういう面では、そういう中でスポーツを通じた国際交流をどう推進していくかということは、これから新たなものを作るときには、具体的なものが必要になってくるのではないかと思う。最後にもう一つ、オリンピック・パラリンピックの事前合宿の誘致について、広島はよくやられたなと思う。メキシコはじめ、事前合宿を誘致し、先ほど局長の話の中にあったように、まさに今メキシコのテニスの選手団が来ている。ちょっと気になるのは、そういう誘致をするという大きな方向で動いてきたが、誘致国を支援するというか、市民応援団の立ち上げを少し支援していく方法も必要なのではないかと思う。最近の海外から合宿に来るのを見ると、地域が支えて、交流会をやっている。地域において、メキシコをどうやって応援しようかということが日常のスポーツの中で、スポーツを通じながら行えば、そういう国際交流がより目に見えるような形で展開できる。ある程度、具体的な形というのが作れば、今までの形でも良い仕上がりができるかと思う。

○ 東川会長

基本的な枠組みについては、これまでのものを踏襲しながら、それに新たな肉づけをしていくという方向で良いのではないかという御意見であった。本来であれば具体的な施策を聞きたいところであるが、今日のところはそこについては置かせていただく。方向性としてはそういう方向で進めてよいか。

(各委員から異議は無し)

○ 東川会長

では、まず基本的な方向性であるが、現在進行中のスポーツ振興計画、その骨組みを踏襲しながら、新たな肉づけをしていくという方向で進めさせていただく。具体的な調査内容について、すぐにこの場で意見をいただくことは難しいかもしれないが、何か気づきの点があれば教えてほしい。

○ 東川会長

平成29年に国が第2期スポーツ基本計画を出された。その計画で障害のある方々のスポーツ実施率というのが、正確ではないかもしれないが、日本で初めて公になったのではないかと思う。この広島市のスポーツ振興計画の中にも障害者スポーツというのはいろいろ謳われているが、障害がある方々へのこういう調査、あるいはデータはどう得られるのかという

点について、そういう視点と摸索が必要ではないかと思う。非常に重要なデータにもなる。国の調査では実施率が19%であったと思う。先ほど鍋島委員からあった女性の方とか障害がある方とかあるいは高齢者とかについて、もしかすると、これまで行っている調査のデータを使い切れてないかもしれないという反省もある。アンケートではいろんな属性を聞いているので、それをクロス集計して、年齢層によって集計して見直せば、それぞれの特徴が出てくるはずである。そういうところのきめ細かな分析もこれから必要になるかもしれない。事務局から何かあるか。

○ スポーツ振興課長

障害者スポーツについて、話をいただいているところであるが、鍋島委員からも事前合宿に触れていただき、局長も申し上げたとおり、今メキシコのテニス選手団が合宿をしている。今までも体操やホッケーを受け入れた際には必ず市民交流の事業を行っている。テニスについても明日、明後日の3時から市民交流を行うが、初めて車椅子テニスの体験を行う。これはテニス協会の御協力をいただき、車椅子テニスといった障害者スポーツの体験を市民交流の事業の中で実施することとしており、障害者の方だけを対象にしたのではなくて、健常者の方を対象にメキシコ選手とともに体験していただく内容を明日初めて行う。また、17日は日本人選手とメキシコ選手で公開の練習試合を行うが、その間で日本人選手同士の対戦で、車椅子テニスの試合を1試合予定している。このような形で障害者スポーツに触れていただく試みを初めて行う。障害者スポーツがある無いといったこともあるので全部の競技というのはなかなか難しいかと思うが、機会があればこういったこともやっていきたいと考えている。また、障害者スポーツの実施率については、障害福祉課等と協議して、検討していきたいと考えている

○ 障害福祉課長

障害者スポーツに関して、私どもが作っている広島市障害者計画というものがある。これは障害者施策全般について施策の方向性を決めているもので、平成30年3月に策定し、2018年から2023年までの6年間の計画である。この計画を策定するに当たり、障害者の方にアンケートを取っている。それは、身体障害者、知的障害者、障害児、精神障害者、難病の方とか、それぞれの障害種別ごとに、アンケートを取っている。そのアンケートの項目の中にスポーツという切り口ではないが、「日常運動をどれくらい行っていますか」とか、「そういう運動するに当たって、どういった支援が必要だと思いますか」とか、そういった項目でのアンケート調査は行っている。スポーツ振興計画とは別の障害者計画の中にも、障害者スポーツに関しての施策の充実というのを重点項目として置いている。これは2023年までの障害者計画になるので、更新の時期の前に、またアンケート調査を実施するようになるかとは思いますが、今回のスポーツ振興計画の中のアンケートともリンクできるような形でスポーツ振興課とも協議していけたらと思う。

○ 市民局長

鍋島委員からの発言の部分で、古く言えば、アジア大会の時に1館1国という事業があった。また、最近で言えば、ラグビーワールドカップでも北九州の方がウェールズの国家を歌うということもあったので、そういう意味で広島市民が合宿をされるメキシコと応援を通じて触れ合って、さらにその相互理解が深めるということは非常に重要だと思っている。そういった意味では、先ほどスポーツ振興課長からも説明があったように、地域で交流事業というのをやっているが、来年に向けて、さらに事前合宿が来られるときに心の触れ合いができるような形で検討を進めていきたいと思っている。また、その辺は御意見いただければと思う。

○ 鍋島委員

アンケートについて、9ページの「⑧運動・スポーツ施設について」とあるが、去年、世界大会である FISE に広島が手を挙げて誘致をされた。若い人向けの BMX とか、ボルダリングとか、そういう新しいスポーツであるが、BMX もオリンピック種目の一つになっている。そういう面では新しいスポーツが、若い人をどんどんとスポーツの世界に引き込むには良い材料ではないかという気がする。その人達がどこで練習をして、あれだけのすばらしい演技ができるようになるのかという疑問が F I S E を見て感じた率直な感想であるが、この度アンケートで、「新たに設置してほしい運動スポーツ施設は何か」という設問があるので、回答の項目の中に、スケートボード場になるかどうか分からないが、BMX とかボルダリングとか総合的にできるような施設というのをに入れてはどうか。簡単にできるものではないと思うが、官民挙げて、サッカー場のような形まで金が要らないはずであるので、何か良い方法で、若い人が広島へ来ると F I S E の世界大会があるとか、そういうものが何か広がっていくようなきっかけになるものはないかと思う。アンケートでも何か若い人が魅力的に感じるものがあると回答しやすいと思う。

○ スポーツ振興課長

鍋島委員から話があった F I S E について、補足で説明すると、都市型スポーツ、アーバンスポーツの大会であって、昨年、今年と4月に、それぞれ3日間ずつ市民球場跡地で開催した。種目としては、スケートボード、BMX、それからボルダリング、飛んだり跳ねたり障害をよけてスピードを競うパルクール、こういった競技がある。今年について言うと、3日間で延べ10万3,000人の観客を集めて行った。どこで練習しているのかという御質問があったが、もともとこの都市型スポーツというのは、ヨーロッパが発祥の地であり、街角とか、路上とか、そういった場所でスケボーであるとか、BMX といったものを練習されてきたと聞いている。日本においては、体操であれば日本体操協会であるとか、ホッケーであれば日本ホッケー連盟であるといった競技団体があるが、アーバンスポーツについてはまだ、県レベルにおいて、そういった団体が無いため、練習場所の詳細を把握できてないのが実態である。

○ 東川会長

今、広島で起こってきている新しいものも、どのように思われているのか、そのようなところも含めて調査項目を再構成してみてもどうだろうかというような御意見かと思う。これも検討してみたらどうかと思う。平成21年に行った具体的な調査用紙がお手元に冊子であると思うが、その調査を全てではないが、まとめたものが、スポーツ振興計画の改訂版の後半にデータとして掲載してある。それらもご覧いただきながら、今御意見あったようなことなども参考にして、こういう項目を加えられたら、このようなことが把握できるので入れてみるはどうかとか御提案、御意見をいただければと思う。それを申し訳ないが、10日余りということで11月27日あたりまでにファクスあるいはメールでスポーツ振興課に提出していただけると大変助かる。こういう依頼をしてもよいか。

(各委員から異議は無し)

○ 東川会長

大変お忙しいと思うがよろしく願います。それでは議事の1番目2番目、基本的な施策の取り組み方法、そして、それに反映させる市民意識調査の実施について、事務局からの提案に、委員から御意見いただいたことなどを踏まえて進めさせていただく。それでは、三つ目の議題である数値目標等の策定スケジュールについて事務局からの説明をお願いします。

2 議事3について

○ 東川会長

数値目標の設定も含めて説明いただき、それから設定していく上での今後のスケジュールについて議事資料3で説明していただいた。今の内容について、何か御意見等があったらお願いします。事務局と事前に打ち合わせする中で、国体の広島県選手に占める広島市の選手の割合が何%かという数値目標があり、現在大体50%ぐらいであるが、このような数値目標が競技力向上のところで本当にいいのか、新たな目標の方が、より競技力向上面からいって、良いのではないかとといった話題もあった。そういうところも含めて、これから少しずつ調査の結果なども踏まえながら検討していくことになるかと思う。それでは、せっかくの機会なので、御意見があったらお願いしたい。

○ 杉野委員

いかにしたら広島市のスポーツが推進できて、そして、これからの高齢化社会に入って、出来るだけ健康寿命を長くしていくというような建前から考えると、我々は広島市の137学区の中で生涯スポーツを中心として、小さい子どもからお年寄りまでを中心としたスポーツを考えながら、スポーツによって、人間関係ができ、そして、お互いに地域で明るく生活していただくというような考え方で努力をしている。先ほども話があったが、施設の問題がある。施設については、本当にちょっと寂しい気持ちがしている。これだけの大きな範囲の中で、そうした施設が幾つあるのか。そして日常的に簡単に子供たちに教えられるような、

クラブの一つの競技にしても、教える人はいてもグラウンドがないとか、そうすると体協に入りなさいとか、いろんな問題がある。やはり小学校のグラウンドを使用するというのが殆どであって、施設ということになると、耐震構造という問題もある。そんなに大きく高いものでなくても、遊休の土地、空いた土地を借りながら、出来るだけ多目的なスポーツができるようにすれば、もっとお年寄りの方から子供までがある程度のスポーツできるのではないかと思う。それから、スポーツセンターで扱う物であるが、金額的に高いものも、安いものもある。整っている地域もあれば、整っていない地域もある。だからできれば各区のスポーツセンターには、最低限生涯スポーツに必要な道具は出来るだけ取り揃えていただけないと、なかなか難しいかと思う。マラソン一つにしても、やることになると県警のほうで警備で厳しく、そして、集まってもらうためには、駐車場がいるといったことにしても、河川敷で駐車場をやるためには河川を管理している国交省のほうから、草刈りを自分達でやりなさいと言われ、今度草刈ったら、軽トラで100台くらいかかるのでないかというぐらいの草を処分しないといけない。そういったこともあってなかなか大変な難しいことである。我々の学区体育団体連合会の思いとしては、できるだけ遊休の土地を利用しながら、出来ることならば、多目的広場を作っていただきたい。

○ 東川会長

杉野委員からもありましたように、実際現場としては何でどう困っているのかというようなところも合わせながら、次の具体的な施策というものを考えないといけないと思う。

○ 鍋島委員

具体的な施策もアンケート調査を基にして決めていくということですが、ただ、数値目標というのが、感情で何々をやってもらいたいとか、もっと人増やしたいとかということがあがるが、エビデンスというか、数値的なものをどう目標に立てていくかということを作らないと、いろいろな考え方があってなかなか一つの方向には収れんできないと思う。そういう面では、スポーツ実施率について、特に全国的にも東京でも今回余り良い数字が出ていないのではないかと思うが、広島市の67%というのは70%の目標で未達ではあるが、すごい数値だと思う。67%の背景であるが、こういう理由でなったというのがもし掌握されていたら聞かしてもらいたい。今後はそういう結果に基づいて、できるだけある程度納得していただけるようなものにする必要がある。どうしても数値目標というのは、特に高齢者の問題で、これから高齢者がどんどん増えていくので、そういう意味では何らかの形でこういう数値目標を明確にしながら、結果どうなっているかということ、皆さんの税金を使うということになると納得してもらう余地が高いと思う。そういう面では、そこらを意識して作っていただければと思う。なかなかこれがならないのが今であるが、スポーツに対してのダーティーイメージというか、コンプライアンスの問題とか、組織のガバナンスの持ち方というのが大きな問題になっている。アンケートで出る問題ではないと思うが、我々はやっぱりスポーツを本当に良い形で展開していこうとしたら、コンプライアンスはしっかり守るような、そういう組織を作っていく必要があるのではないかと思う。

○ 東川会長

是非そういう方向に進めるように取り組む必要がある。先ほど、メキシコ選手団の事前合宿で色々と交流事業を行っている話があった。個人的な見解であるが、可能であれば、そのエビデンスを取ってもらいたい。これだけお金をかけて、交流事業をやった結果、どうなったのかと多分問われると思う。今後もやはり国際平和都市として、そういったものがどんどん入ってくる可能性があるのも、やはり遺産として、レガシーとして、これからも力を入れていく方向が出てくるかもしれないので、そういう後づけがあると良いと思う。

○ スポーツ振興課長

資料として配布はしていないが、スポーツ実施率67%の結果について考察したところ、この審議会でも御指摘いただいたが、高齢者いきいきポイント事業が大きく影響したのではないかと考えている。この事業の良い点としては民間の施設についても対象になる点と、スポーツも幅広く対象になるので、例えばラジオ体操であったりとか、グラウンドゴルフであったりとか、身近で参加しやすいものも対象となっている。それからスポーツセンターでも、やはりいきいきポイント事業のスタンプカードを持ってくる方が増えたということを聞いている。そうした点が大きかったのではないかとというところが一つ。それから、もう一は、先ほど杉野委員から話があった学校開放について、まだまだ使い方について検討の余地があるところであるが、この学校開放事業については、本市は、全政令市を比べてもトップクラスである。それは、開放率は他の政令市も高いが、夜間照明を整備している都市というのが本市のほかに2市ぐらいである。当然のことながら学校施設なので、日中は生徒が利用しているが、学校が終わり、夜間になって仕事を終えた大人がソフトボールとか、野球とか、サッカーとかにグラウンドを使用される。そうした利用ができる施設が小学校区という身近なところにあって、使いやすいといったところが実施率の高い要因ではないかと考えている。

○ 東川会長

高齢者いきいきポイントを活用しましたという回答項目は、アンケートの中に入るのか。

○ スポーツ振興課長

回答項目に入れるかどうかは検討してみたいと思う。エビデンスを取るという意味では、スポーツをするきっかけとなったことを聞く設問の選択肢の一つとして入れてもいいかと思う。

○ 東川会長

中国新聞の記事を読んだときに、高齢者いきいきポイント事業がうまく活用されなくてやめてしまうところも出ているというようなことも読んだ。それが一つのきっかけになっているのであれば、そういう実態も分かったら良い。

○ 木原委員

私は広島市老人クラブ連合会の代表として参加している。地域においては、今話が出た、高齢者いきいき活動ポイントの関係かもしれないが、ラジオ体操が大変盛んである。東川会長が言われた、女性の進出、あるいはスポーツというジャンルについて、皆様方はスペシャルオリンピックスという言葉聞いたことがあるだろうか。平成10年6月1日に広島でスペシャルオリンピックスを立ち上げた。これは、最近ではパラリンピックが大変クローズアップされているが、スペシャルオリンピックスというのは、知的発達障害の人達にスポーツの場を提供して、社会参加しようじゃないかということを目指して活動している団体である。これは、亡くなりましたが、川村先生を会長にして、平成10年に立ち上げて、今日に至っているが、最初はそれこそ、これがスポーツと言えるのだろうかというような有様であった。それを、学校の先生方にコーチをしていただき、そのコーチのおかげで、子供達がちりちりばらばらであったのが、さっと集まるようになった。これは大変大きな成果である。そして、最初、名前を呼ばれても「はい」と答えられるような状況では無かったが、コーチの言うことには答えるようになった。今は約170名のアスリートがいて、広島、三次、廿日市、尾道、福山でやっている。その170名のアスリート達が、今では、毎日、まず水泳から始まってサッカーなど色々なことをやる。タンブリング、剣道、格闘技というのは、タブーになっているが、その他は何でもできるということでやっている。皆様に御理解いただいて、本日出席の皆様方は大なり小なり、スポーツという名の基に、色々なことをしていると思うが、周りに知的発達障害の子供、これは6歳から、上は70歳でも80歳でも大丈夫である。やるルールはちょっと違いがあるが、とても良いスポーツだと私は思う。世界大会にも行ってきたし、各国との交流もやってきた。スポーツの世界というのはすごいことだと実感して帰った。皆様方の周りに知的障害の子供がいたならば、スペシャルオリンピックスというスポーツをするところがあると伝えていただければ誠にありがたいと思う。それと、女性のことであるが、女性の社会進出というのがなかなかできない。本日出席している大方が男性のメンバーである。女性のメンバーがもっと多く参加ができれば、意見も色々出るのではないと思う。私自身が学生時代からずっとスポーツに関わって、地域においても、今日に至るまで、ずっとスポーツを通して関わっている。地域にあって、話が前後するが、ラジオ体操を50年前に私が町内で立ち上げた。それは子供の夏休みに合わせて立ち上げたのだが、1年365日はできない。今の時期は夜明けが遅いし、日暮れも早い。このため、6、7、8、9、10月の、この5カ月間を私自身が12年間雨の日以外は続けてきた。そして、その場所が建替えられたために使えなくなったので、2年ぐらい休みました。そうしたら、その住宅に住んでいる方が、せっかく皆がやって楽しんできた体操なのだから、続けようじゃないかということで今に至っている。ですから、歴史は長い。今は一年365日、毎日体操して老若男女といえども、老人の方が大方である。老人の健康のためには1番手軽で1番良いものではないかなと思う。今更国体でもないし、オリンピックでも無いので、無理をせず、気楽に参加できるような、老人でも楽しんでやりましょうというものを私自身が地域で何種目か実行している。どうぞこれからは女性の方もこういう席に出席させていただき、周りの状況、あるいは、行政の方針なども直に聞かせていただく機会があれば、もっと

もっと認識を深めることができるのではないかと考えている。

○ 東川会長

ラジオ体操については、この審議会でも、積極的にもう1回見直そうじゃないかという御意見もこれまで沢山出てきている。私どもが何となく、知っているようで知らないようなことが沢山あるような気がする。これから具体的な施策を考えていく中で、そうした御意見、あるいは実際行われていることも、審議会では是非御意見いただきたい。広島の実態に合ったあるいは全国に先駆けていくようなものが作れればと思う。

○ 西野委員

昨今ニュースで一時期毎日のように、子供の虐待のニュースが出ていた。皆さん、本当に心を痛められているのではないと思う。ニュースの関連を見ていると、そうしたニュースが複数ある日もあった。本当にニュースを見ていると涙が出てきて、心が痛い日々が続いていた。そのような中で、子供を育てるお父さん、お母さんその縦の繋がりが、スポーツを通じて地域の子供たちを助けられないかと思う。やはり子供の幸せな笑顔というのは、大人をすごく幸せにする。子供の幸せが、この先の世の中の幸せな世界を作っていくのではないかと感じる。地域で連携できる、地域づくりとしての、コミュニティとしてのスポーツそういうものがあれば良いのではないかと日ごろ思っている。それがどういう形なのかというのは、先ほど木原委員も言われたようにラジオ体操かもしれない。私達が小さい時に、8月31日にご褒美の鉛筆一本を貰うのを楽しみにラジオ体操に通ったことを思い出しながら、考えていた。それから、今、私が住んでいる地域では運動会というのではないが、昔、地域の町民運動会というのがあった。その中で、子供ながらに、あそこのおじいちゃん、おばあちゃんに褒めてもらったことや、あそこのおじいちゃんに「頑張ったな」と言ってもらえたことがすごく自信になって、すごく嬉しかった。その褒めて貰ったおじいちゃん、おばあちゃん達が、その後、学校の行き帰りの挨拶で「おはようございます」と言うと、「今日も元気に行っているね」と声かけてもらった。こうした地域の繋がりというものをもっともっと深めていけるようなスポーツ活動というのが、スポーツとしての役割になれば、地域の助けにならないか、子供たちの命を救えないかと考えている。それから、先ほどから障害者のスポーツという話が出ているが、障害の有無、年齢、運動経験を問わず、お互いに個性を認めあって、楽しくワクワクできるような、地域コミュニティとしての運動・スポーツづくりというのが、どういう方法でできるのかということも考えている。その個性の認め合いの中には、やはりスポーツの目的の違いということも、個性の違いかと思う。健康づくりの方もいるし、競技スポーツの方もいるし、楽しむための方もいる。どちらも大事なスポーツの取り組み方であって、相互理解しながら、お互いを認め合いながら信頼関係をどんどん作って、共生社会としてのスポーツ社会という部分と、あとは冒頭にメキシコの誘致という話があったとおり、平和都市広島ならではの、広島らしさを出せるようなスポーツと、それから、これも先ほどアーバンスポーツという話が出たが、誰もが懂れる、やってみたいスポーツがあると思う。子供たちのやってみたいという思いを応援できるようなスポーツ環境があれば良いと感

じている。道具であつたり、場所であつたりがあれば良いと思う。一方で安全性というのも大事かと思う。世界平和ということもあるが、まずは身近な家庭内平和、子供達が生き生きと、命が大切にされる世の中になってほしいと思う。そのためには何か反映できるような、子供から意見を聞くというのは難しいかもしれないが、何かそれが表に出れば良いと思う。

○ 東川会長

非常に基本的なところをお話しいただいたと思う。今御意見いただいたようなことも、具体的に、それを数値でどうするというのはなかなか難しいところがあるかもしれないが、一つでも形にして、これからの具体的な施策に反映できるような形になればと思う。西野委員からも、このようなことを聞いてみたら良いのではないかというのがあったら是非御提案いただければと思う。

○ 麓委員

今日の会議内容を聞いて思ったことと、希望としてお願いしたいことがある。私は今、高校での講師と、家庭教師として呉も担当するなど広島ほぼ全域の生徒を持っている。今日は実際の生徒達を連れてくることは出来ないで、市民の声、生徒の声というのを届けたいと思う。今回、意識調査ということで、小中学生の調査票が出ていたが、どちらかというマーク式に近く、どれかしか選べない状態、センター試験のようなものとして、私は感じた。出来れば自由欄として、記入できる場所があれば良いかと思う。例えば、「こういうふうにしてほしい」とか記入できれば良いのではないかと思う。今はどちらかという、メキシコの団体など海外に向けたアピールというのを結構頻繁にされていると思うが、先ほど西野委員も言われたように、やはり今後の広島を担うのは子供達だと私も同じ意見である。今スポーツに触れていない子供達というのが結構多くいるのが現状としてあると思う。それは、ひきこもりや体育で嫌な思いをしたということである。今私が担当している子供が50人ぐらいいるが、その子供達にアンケートを今日書いてきてもらっている。「体育の時間に先生に中指を立てられた」とか、「平手打ちをされた」とか、そういったことも聞いているし、あとは「野球部の練習で水が飲めない」ということも聞いている。それから、学校の伝統というものがあると思う。例えばバレー部の練習で、ボール拾いだけとか、そうした悪しき伝統というか、その学校の風習、そういったものが私達に見えないところで多々あると思う。この度こういった改革を実施されるということなので、そこを踏まえて自由欄の記載であつたりとか、あと、どちらかというこの設問というのはプレーヤー向けであつたりとか、スポーツをしてどうですか楽しいですかとか、しないですかという選択肢しかないで、出来ればスポーツをやらない理由とか嫌な思いをしたとかという選択肢の欄も作っていただけると、この子供達も、発言がしやすい。学校が変わってほしい、体育の授業で変わってほしいという思いがあるから、やはりこうしたデータが出ている。今50人を対象にして、これぐらい出ている状態なので、もっと1000人とか、全学区内とかでやると、もっともっと色々な事が、表に出ていないものも出てくると思う。そこはやっぱり膿を全部出して綺麗にして、スポーツをしていない子供たちも、スポーツの業界に巻き込んで、広島全体を盛り上げてい

く。もちろん海外に目を向けることも大事だと思うが、やはり今後を支えていくのは本当に子供達なので、そこをしっかりと捉えて、大人が子供たちを幸せにしていって、そして幸せになった子供達から広島を変えていくというのが1番ベストなのではないかと思う。

○ 東川会長

全国的な傾向であるが、例えば高校生になると、特に女子高校生は、スポーツの実施率が中学生の半分ぐらいまで下がるというデータが出ている。私は競技スポーツに関わっているが、その中で女子高校生の生徒が本当にいなくなる。中学校までは一生懸命スポーツをしている生徒達は沢山いるけれども、高校になると半分以下になる。一昨日ある会があつて、そこでも随分話題になって、本当に悩んでいるところである。そういう意味では先ほど、麓委員からあったように、数値はもちろん大切なところであるが、そういう生の声あるいは現場の声とか、そうしたものも組み込んでいけるような取り組みがあると、さらに良いものができるのではないかと思う。

○ 東川会長

まだまだ、皆様、御意見あるかと思うが、お忙しい中集まっていたき、時間も限られているので、これで審議会を閉めさせていただきたいと思う。先ほど、アンケートへの意見について、11月27日までということで、どのようなことでも構わないので、御意見を願いたい。お願いの趣旨としては、「こういう質問はどうですか」、「この質問はもう要らないのではないか」というような意見をいただきたいが、質問項目に限らず、「こういうことも合わせて調べてはどうか」といった御意見もいただきたい。今麓委員からあった意見も一つだろうと思うので、そのようなところも含めて御意見をいただければ、事務局としてもこれから進める上で役に立つと思う。その点も含めまして、改めてお願いしたいと思う。それでは時間も参ったようなので、以上で審議会を終了させていただく、ご協力ありがとうございました。